

クラシック音楽講座

第7講 ドイツ・ロマン派 (2) 成熟～分裂

リスト ヴァーグナー ブルックナー ブラームス

講師：佐藤卓史

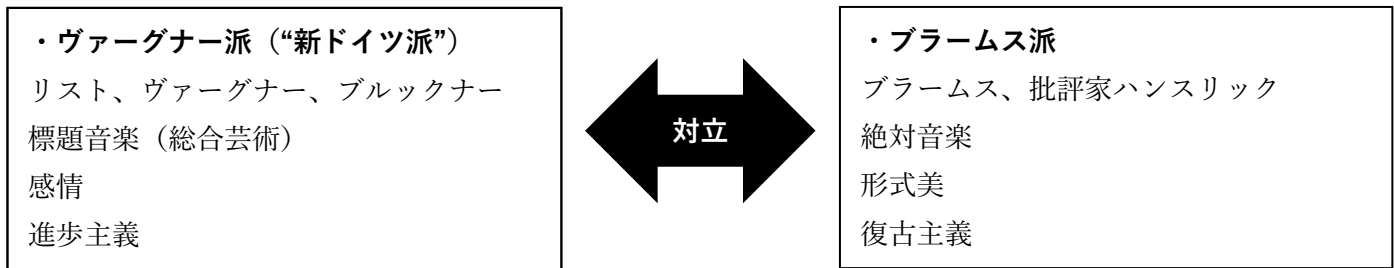
2022年12月11日(日) 小手指公民館分館

ベートーヴェンに続け！と走り出したロマン派の作曲家たち。
ところが、どうしたわけか2つの派閥に分かれて争う事態になってしまう。
なぜロマン派は「分裂」したのか。そこにクラシック音楽の本質を解き明かす鍵がある。

【ロマン派音楽の特徴】※前回のおさらい

- (1) **文学の影響** 標題音楽・総合芸術
- (2) **「主観」「内面」「感情」を重視** ナショナリズム(民族主義)・語法の複雑化
- (3) **革命の時代** 奇抜な音響効果・ヴィルトゥオーゾ・家庭音楽

【分裂する中期ロマン派の作曲家たち】



1. フランツ・リスト (1811.10.22. ドボルヤーン(現ライディング)～1886.7.31. バイロイト)

【概要】史上最大のピアノ界のスター、“**鍵盤の魔術師**”の異名をとる。少年期にウィーンでチェルニーに短期間師事した後は独学で(パリ音楽院入学を拒否される)、驚異の演奏技巧を習得。パリのサロンの寵児となり数多くの音楽家、文化人、王族貴族らと交流。しかし 35 歳で演奏活動から退きヴァイマル宮廷楽長に就任、**作曲に専念**。主要作品の大半はこの時期以降に作曲/改訂されている。50代で**聖職者**となり、神秘的・思索的な作風に転じる。生涯を通じて形式と和声の新奇性への興味を失わず、常に**新時代の音楽**を模索した。

【キーワード】**標題音楽** **標題**は楽譜の冒頭に掲げられた詩の一節や芸術作品の表題で、それは「音楽をよりわかりやすいものにする媒体であり、そのために純粋器楽に添えられた序文である。それによって作曲家は、作品を聴衆の勝手な詩的解釈から守り、聴衆の注意を、あらかじめ**詩的観念**に向けることを目指す」と説明している。詩を音楽に移し替えた描写音楽ではなく、「詩的想念」を共有しているのだとリストは主張するが、実際には描写的な表現が多い。「絶対音楽」の対義語。

交響詩 リストが創始した管弦楽のための標題音楽のジャンル。リストは 13 曲の交響詩を残した。

【主要作品】

- ピアノ独奏曲 **超絶技巧練習曲**(全12曲)、パガニーニ大練習曲(全6曲)、詩的で宗教的な調べ(全10曲)、**巡礼の年** 第1年 スイス(全9曲)、同 第2年 イタリア(全7曲)、同 第2年 イタリアの補遺 ヴェネツィアとナポリ(全3曲)、コンソレーション(全6曲)、ハンガリー狂詩曲(15曲+α)、**ピアノ・ソナタ 短調【譜例1】**、**メフィスト・ワルツ** 第1番、忘れられたワルツ、巡礼の年 第3年
- 管弦楽曲 交響詩「タツシ」、同「マゼッパ」、同「**レ・プレリュード**」、ファウスト交響曲
- 協奏曲 ピアノ協奏曲第1番・第2番など

2. リヒャルト・ヴァーグナー (1813.5.22. ライプツィヒ～1883.2.13. ヴェネツィア)

【概要】自ら台本を書き演出まで手がけた、ドイツ語オペラの“**革命家**”。実際にドレスデン五月蜂起に加担して指名手配され、スイスなどへ逃亡しながら新たなオペラのあり方を構想。**神話や伝説**に題材を採った長大な舞台作品を残し、劇的で過剰な表現を追求。“**新ドイツ派**”の旗手として反対派と激論を交わし、論文では**ドイツ民族至上主義・反ユダヤ主義**の立場をとり物議を醸す。その独自の濃厚な音楽と世界観を熱狂的に支持する“**ヴァグネリアン**”を多数獲得。崇拜者のひとりであったバイエルン国王“狂王”ルートヴィヒ 2 世の支援を受けてバイロイトに自分専用のオペラハウス「**バイロイト祝祭劇場**」を建設。現在も「バイロイト音楽祭」はヴァーグナー一族の運営で毎年開催され、世界中のヴァグネリアンの聖地となっている。

【キーワード】**楽劇(Musikdrama)** それまでのオペラは①イタリア語が基本、かつ②複数の歌(アリア)や叙唱(レチタティーヴォ)、バレエなどが連なる「集合作品」だったが、ヴァーグナーは①ドイツ語で自民族の歴史を題材とし、②全体が切れ目なく続いていく、という新たなオペラを構想した。Musikdrama の語はヴァーグナーの論文中に登場するのみで、自身がその語を冠した作品は厳密にはないが、一般には「トリスタンとイゾルデ」以降に完成した舞台作品が「楽劇」と呼ばれている。

トリスタン和音 「トリスタンとイゾルデ」の第1幕前奏曲に登場する特殊な和音(ヘ-ロ-嬰ニ-嬰ト)【**譜例 2**】。調性感があいまいで、幾通りにも解釈できる多義性をもつ。後の**調性崩壊**に至る道のりの象徴とされる。

無限旋律 フレーズの明確な終わりがなく、いつまでも続いていく旋律。ヴァーグナーが得意とした手法。

ライトモチーフ(示導動機) 短い主題・動機(モチーフ)を、特定の**人物や状況**と結びつける技法。言葉によらず音楽で物語内の状況を説明することができ、楽曲の統一感をもたらす【**譜例 3**】。

【主要作品】

■オペラ・楽劇 すべて台本はヴァーグナー自身

- ・「**さまよえるオランダ人**」 [1840-41 初演 1843]
- ・「**タンホイザー**」 [1843-45/47-50 初演 1845/1861]
- ・「**ローエングリン**」 [1846-48 初演 1850]
- ・「**トリスタンとイゾルデ**」 [1857-59 初演 1865]
- ・「**ニュルンベルクのマイスタージンガー**」 [1862-67 初演 1868]
- ・四部作「**ニーベルングの指環**」
 - 序夜「**ラインの黄金**」 [1853-54 初演 1869]
 - 第1日「**ヴァルキューレ**」 [1854-56 初演 1870]
 - 第2日「**ジークフリート**」 [1856-71 初演 1876]
 - 第3日「**神々の黄昏**」 [1869-1874 初演 1876]
- ・神聖舞台祝典劇「**パルジファル**」 [1877-82 初演 1882]

■その他の作品

- ・ヴェーゼンドンク歌曲集 [1857-58]
- ・ジークフリート牧歌 [1870]

3. アントン・ブルックナー (1824.9.4. アンスフェルデン～1896.10.11. ウィーン)

【概要】孤児となり教会で育つ。オルガニスト・教師として生計を立てながら作曲を学び、40歳頃から交響曲に挑戦。長大で荘重な交響曲をコンスタントに作曲し、周囲の評価を聞いて過去作も熱心に改訂した。**ヴァーグナーに心酔**し交響曲第3番を献呈、ヴァーグナー派の一員として保守派の攻撃に晒されるが、60歳で発表した**交響曲第7番**が大成功を収める。以降ドイツ語圏で最も重要な交響曲作家と認められた。

【キーワード】**ブルックナー開始【譜例4】** 冒頭が**弦楽器のトレモロ**で始まる交響曲が多い。ベートーヴェン「第九」のオマージュ。これに限らず特定の独自語法を執拗に繰り返す傾向が強い。

版問題 ブルックナー本人が何度も自作を改訂したことに加え、生前に出版された「初版」にも弟子などによる改訂が加わっており、後年これを取り除いた「原典版」が企画された。旧全集「ハース版」、新全集「ノヴァーク版」等があり、それぞれ楽曲構造などの見解に大きな違いがあるため、実演や録音では明記されることが多い。

【主要作品】

■交響曲 全9曲+習作2曲

- ・交響曲 (第00番) へ短調 WAB99 [1863]
- ・交響曲 第1番 ハ短調 WAB101 [1866/91]
- ・交響曲 第0番 ニ短調 (「無効」) WAB100 [1869]
- ・交響曲 第2番 ハ短調 WAB102 [1872/76/77/92]
- ・交響曲 第3番 ニ短調「ヴァーグナー」 WAB103 [1873/77]
- ・交響曲 第4番 変ホ長調「ロマンティック」 WAB104 [1874/78/80/86]
- ・交響曲 第5番 変ロ長調 WAB105 [1876/78]
- ・交響曲 第6番 イ長調 WAB106 [1881]
- ・交響曲 第7番 ホ長調 WAB107 [1883/85]
- ・交響曲 第8番 ハ短調 WAB108 [1887/90]
- ・交響曲 第9番 ニ短調 WAB109 (未完) [1891-96]

【宗教合唱曲】

- ・ミサ曲 第2番 ホ短調 WAB27 [1866/76/82]
- ・テ・デウム ハ長調 WAB45 [1881/84]

4. ヨハネス・ブラームス (1833.5.7. ハンブルク～1897.4.3. ウィーン)

【概要】ドイツ・ロマン派の「保守本流」を体現する作曲家。ハンブルクでピアノと作曲を学び、20歳のときデュッセルドルフの**シューマン夫妻**を訪ねる。シューマンは評論「新しい道」を書いてその才能を絶賛するが、数ヶ月語に自殺未遂を図り2年後に死去。ブラームスはクララと一家を献身的に支え、晩年のシューマンの周囲の人間関係を継承してキャリアを開始する。保守派の論客ハンスリックの後押しで29歳でウィーンに進出。古典の研究を通して絶対音楽への指向を強め、**ベートーヴェンの後継者**として保守派の期待を背負うことになる。1876年、構想20余年の**交響曲第1番**で名声を確立。以降夏になると避暑に赴き、そこで新曲の構想を練るのが習慣となる。60歳を前に一度引退を決意するも再度筆を執り、晩年の**孤高と諦念**の境地に達した。自己批判・管理が厳しく、20歳以前に書かれた習作やスケッチの類はほとんど自らの手で破棄されている。

【キーワード】**絶対音楽** 音楽外の概念に頼らず、自律した構造と形式によって普遍的な美の実現を目指す音楽。ブラームスは初期には標題音楽的な傾向も垣間見せていたが、年を追うごとに均整の取れた形式を理想とするようになり、そのすぐれた作曲技術への賞賛と、着想が貧困・晦渋という批判を受けることになる。

リズムの複雑化 ブラームスは和声の複雑化＝調性の逸脱には向かわず、ポリリズムや拍節感の偽装によって複雑な音響を実現させた【譜例5・6】。

古典・対位法の研究 ルネサンスからベートーヴェン・シューベルトに至る音楽史の全貌に通じ、とりわけ**バッハ研究者**としては当時の音楽家の中では群を抜く。自作にはバッハからの引用や影響も顔を出し、交響曲第4番の終楽章ではバロックの「**パッサカリア**」（低音変奏）の手法を援用した。

民俗音楽（ハンガリー＝ロマ）への興味 若き日に演奏旅行を共にしたハンガリー出身のヴァイオリニスト、レマーニからロマの旋律を教わる。「**ハンガリー舞曲集**」大ヒットの際には著作権をめぐるレマーニから提訴されたが、それ以外の作品にも時折ハンガリー風の民俗的な音楽が登場しエキゾチックな色を添えている。

【主要作品】

■交響曲

- ・交響曲 第1番 ハ短調 作品 68 [1855-76] 【譜例 7】
- ・交響曲 第2番 ニ長調 作品 73 [1877] 【譜例 6】
- ・交響曲 第3番 ヘ長調 作品 90 [1883]
- ・交響曲 第4番 ホ短調 作品 98 [1884-85]

■協奏曲

- ・ピアノ協奏曲 第1番 ニ短調 作品 15 [1854-59]
- ・ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品 77 [1878]
- ・ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品 83 [1881]
- ・ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品 102 [1887]

■室内楽曲

ピアノ三重奏曲 (3曲)、**ピアノ四重奏曲** (3曲)、**ピアノ五重奏曲**、**弦楽四重奏曲** (3曲)、**弦楽五重奏曲** (2曲)、**弦楽六重奏曲** (2曲)、**チェロ・ソナタ** (2曲)、**ヴァイオリン・ソナタ** (3曲)、**ホルン三重奏曲**、**クラリネット三重奏曲**、**クラリネット五重奏曲**、**クラリネット・ソナタ** (2曲)

■ピアノ曲

- ・初期 **ピアノ・ソナタ** (3曲)、4つのバラード 作品 10
- ・中期 ヘンデルの主題による変奏曲 作品 24、**パガニーニの主題による変奏曲 作品 35** 【譜例 5】
- ・後期 小品集 作品 116～119 【譜例 8】

■その他

- ・**ドイツ・レクイエム 作品 45** [1865-68]
- ・**ハイドンの主題による変奏曲 作品 56** [1873]
- ・4つの厳粛な歌 作品 121 [1896]

ドイツ・ロマン派が分裂し停滞し始める頃、周辺各国でも民俗色豊かなロマン派音楽が花開く。革命の大混乱を乗り越えたフランスではまた新たな潮流が躍動し始める。行き先を見失ったロマン派にとどめを刺す一派は、やはり音楽の都「ウィーン」から現れた！

1800

1850

1900



シュューベルト
(1797-1828)

●1830 フランス七月革命



メンデルスゾーン
(1809-1847)

●1848 諸国民の春
(独逸三月革命ほか)

●1862 ビスマルク普宰相就任
●1866 普墺戦争で墺敗北



シューマン
(1810-1856)

●1870 普仏戦争

●1871 ドイツ帝国成立
(ドイツ統一)



リスト
(1811-1886)



ヴァーグナー
(1813-1883)

●1886 バイエルン
国王怪死



ブルックナー
(1824-1896)



ブラームス
(1833-1897)

●1809 ナポレオン軍
ウィーンを占拠

●1814 ウィーン会議
(ナポレオンの失脚)

●1825 英で蒸気機関を
旅客輸送に実用化

●1839 ダゲレオタイプ(銀板写真)の発明

●1851 ロンドンで第1回万国博覧会

【譜例1】 リスト：ピアノ・ソナタ 口短調 主題と変容の作例

①主題の提示(第9～17小節) 第1主題は英雄的・悲愴的な**動機A**と低音で蠢くような**動機B**からなる。

動機 A

動機 B

f marcato

②第153小節～ 動機Bが叙情的な性格に変容。まるでショパンの夜想曲のような書法。

152

rall.[-

smorz.

cantando espressivo

pp

l'accompagnamento piano

②第642小節～ 左手は、音高は動機A、リズムは動機B。右手も動機Aの変奏。

641

pp un poco animato

トリスタン和音と無限旋律

2

TRISTAN UND ISOLDE.

Einleitung zum 1. Aufzug.

Introduction from the 1st Act.

Prélude du 1^{er} Acte.

Richard Wagner.

Arrangement von R. Kleinmichel.

Langsam und schmachkend.

Lento e languente.

トリスタン和音

【譜例3】 ヴァーグナー:「ニュルンベルクのマイスタージンガー」 主なライトモチーフ

①マイスタージンガーの動機

Musical score for the Master Motif in 4/4 time. The piece is marked *ff* (fortissimo). The melody is primarily in the right hand, featuring a sequence of chords and eighth-note patterns. The left hand provides a rhythmic accompaniment with chords and eighth notes. A *rit.* (ritardando) marking is present at the beginning of the left hand part.

②求愛の動機

Musical score for the Love Motif in 4/4 time. The piece is marked *espressivo* and *meno f* (mezzo-forte). The melody is primarily in the right hand, featuring a sequence of chords and eighth-note patterns. The left hand provides a rhythmic accompaniment with chords and eighth notes. A *pù* (pianissimo) marking is present at the end of the piece.

③ダヴィデ王(行進)の動機

Musical score for the David King March Motif in 4/4 time. The piece is marked *f* (forte) and *ben tenuto.* (well sustained). The melody is primarily in the right hand, featuring a sequence of chords and eighth-note patterns. The left hand provides a rhythmic accompaniment with chords and eighth notes.

④芸術の動機

Musical score for the Art Motif in 4/4 time. The piece is marked *sempre ff* (sempre fortissimo). The melody is primarily in the right hand, featuring a sequence of chords and eighth-note patterns. The left hand provides a rhythmic accompaniment with chords and eighth notes.

⑤愛の動機

Musical score for the Love Motif in 4/4 time. The piece is marked *Mässig im Hauptzeitmaass.* (moderately in the main time measure) and *P dolcissimo ed espressivo* (piano, very sweet and expressive). The melody is primarily in the right hand, featuring a sequence of chords and eighth-note patterns. The left hand provides a rhythmic accompaniment with chords and eighth notes.

VII. SYMPHONIE E-dur

Anton Bruckner

1. SATZ

Allegro moderato

10

1. Flöten
2. Flöten
Oboen 1. 2.
1. in A Klarinetten
2. in A Klarinetten
Fagotte 1. 2.
1. 2. in F Hörner
3. 4. in F Hörner
1. 2. in F Trompeten
3. in F Trompeten
Alt, Tenor Posaunen
Baß Posaunen
Kontra-Baßtuba
Pauke in E tief

(Allegro moderato)
Violine 1
Violine 2
Viola
Violoncell
Kontrabaß
(Allegro moderato)
lang gezogen
10

【譜例5】 ブラームス：パガニーニの主題による変奏曲 作品35 第2巻より

①第2変奏 右手2分割：左手3分割

Var. 2
Poco animato

*poco f espress.
legato*

espress.

②第7変奏 右手2/4拍子：左手3/8拍子（第5小節から右手8：左手9のポリリズム）

Var. 7

p leggiero e ben marcato

non legato

p

【譜例6】 ブラームス:交響曲 第2番 作品73 第1楽章より (R.ケラーによるピアノ用編曲) 拍節の偽装

ヘミオラ (2拍3連) *quasi ritenuto* 不規則なモチーフ反復



This system shows the beginning of the piece. The piano part features a complex rhythmic pattern of eighth notes. The treble part has a melodic line with some rests. Annotations include 'ヘミオラ (2拍3連)' (Hemiola, 2 beats for 3 notes) and 'quasi ritenuto' (quasi ritenuto) with the note '不規則なモチーフ反復' (irregular motif repetition).

ben marc.



This system continues the musical development. The piano part has a steady eighth-note accompaniment. The treble part features a melodic line with some rests. An annotation 'ben marc.' (ben marcato) is present.

旋律の付点シンコペーション *ff* *quasi ritenuto* フレーズと拍節のずれ

ヘミオラ?



This system shows a change in the piano part's rhythm. Annotations include '旋律の付点シンコペーション' (melodic dotted syncopation), 'ff' (fortissimo), 'quasi ritenuto', and 'フレーズと拍節のずれ' (phrase and beat displacement). A question mark 'ヘミオラ?' is also present.

agitato *marcato*



This system features a more active piano part. Annotations include 'agitato' (agitato) and 'marcato' (marcato).

1 拍目を明瞭にしない *ff* *poco f ben marc.*



This system shows a complex piano part with many sixteenth notes. Annotations include '1 拍目を明瞭にしない' (do not clarify the first beat), 'ff' (fortissimo), and 'poco f ben marc.' (poco f ben marcato).

And. *cresc.*



This system shows a piano part with a steady eighth-note accompaniment. Annotations include 'And.' (Andante) and 'cresc.' (crescendo).

【譜例7】 ブラームス:交響曲 第1番 作品68 第4楽章より モティーフ操作の一例

①主要主題 ベートーヴェン「第九」の歓喜の歌との関連

61 **Allegro non troppo, ma con brio**

Fag. *p* *p* *sf*

Hr. 1. (C) 2. *p* *sf*

1.Viol. *poco f* *sf*

2.Viol. *poco f* *sf*

Br. *poco f* *sf*

Vcl. *mp* *sf*

K.B. *mp* *sf*

Allegro non troppo, ma con brio

②終結部 主要主題の冒頭の音型(ハ-ロ-ハ)をモチーフとして連続使用

Trpt. (C) *sf*

Pos. *sf*

Pk. *sf*

1.Viol. *sf*

2.Viol. *sf*

Br. *sf*

Vcl. *sf*

K.B. *sf*

【譜例8】 ブラームス:間奏曲 作品118-2 徹底したモチーフ操作とロマンティックな雰囲気

①主部主題

Andante teneramente

p dolce

②第35小節～ 主題の反行形

(33) *calando*

dolce

③第49小節～ 中間部の新主題 内声(左手上声)で模倣

(49)

④第57小節～ 中間部主題のカノンを用いたコラール風の楽句

(57) *più lento*

pp

legato una corda

(63) *Tempo I*

cresc.

espress.

tre corde